



©EPA ガザで国連が運営する学校。イスラエル軍の空爆を受けて破壊された。2014年7月30日

ガザ紛争から1年 国連はなぜ解決できないのか？

2014年7月、イスラエル軍による大規模な攻撃に晒されたパレスチナ・ガザ。無差別に降り注いだ武器によって、1500人以上の市民の命が奪われました。なぜ、ガザは苦しみ続けなければならないのでしょうか。なぜ、国連や世界は、戦争犯罪を裁くことも、紛争を止めることもできないのでしょうか。あれから1年が経過した今、元国連職員としてパレスチナで活動した高橋宗瑠さんのお話を踏まえながら、日本から何ができるのか、みんなで考えていきます。終了後、キャンドル・ウォークを行い、ガザの人々へ連帯を伝えます。

2015年**7月25日**(土)
東京ウィメンズプラザ ホール
(渋谷区神宮前5-53-67)

参加費▶500円

〈プログラム〉

●講演とパネル・ディスカッション

(受付開始 14:30) 15:00~17:45

第I部▶講演「国連はなぜ解決できないのか？」

高橋宗瑠氏 (元国連人権高等弁務官事務所パレスチナ副代表/ビジネス・人権資料センター日本代表)

第II部▶NGOディスカッション「私たちには何ができるか？」

●キャンドル・ウォーク 18:30~19:30 スタート地点▶渋谷区宮下公園 (予定・裏面を参照)



「渋谷駅」宮益坂口より徒歩12分
東京メトロ「表参道駅」B2出口より徒歩7分

〈お問合せ〉日本国際ボランティアセンター (JVC) パレスチナ事業担当 並木 03-3834-2388 / jvc.palestine@gmail.com

〈主催〉ガザ攻撃から1年・7.25NGO共同イベント実行委員会 (参加・賛同団体は裏面を参照)

2014年7月8日火曜日、世界中がサッカー W杯の準決勝で沸いていた頃、地中海に面する小さなパレスチナ・ガザ地区では紛争が始まっていました。

東京23区の3分の2ほどの土地に6万発以上の武器が降り注ぎ、50日間で1,500名以上のガザ市民が亡くなっています。

1年が経とうとしている今でも、ガザとイスラエルの間には正式な停戦合意がありません。

建材も食料も仕事も不足する中でガザの人々は疲弊し、ガザはいつ紛争が再発しても不思議ではない状況に置かれています。

「なぜ、ガザは苦しみ続け、世界は紛争を止めることができないのか？」

今回のイベントでは、国連職員としてパレスチナを見続けてきた高橋宗瑠氏にお話しいただきます。またその後のNGOスタッフによるパネル・ディスカッションでは、私たち市民がパレスチナ・ガザのために、日本からできることを考えます。

ガザの平安と正義の実現を祈るNGOスタッフ一同、会場にてお待ちしております。

©EPA / OLIVER WEIKEN



第I部〈講演者プロフィール〉

高橋宗瑠 (たかはし・そうる) さん

早稲田大学卒、英国エセックス大学院にて法学修士号(国際人権法)取得。アムネスティ・インターナショナル日本支部でのボランティア及び国際事務局(ロンドン)での勤務後、ジュネーブなどを経て2009年3月より2014年5月まで国連人権高等弁務官事務所(OHCHR)パレスチナ副代表を務める。2014年6月より英国の国際人権NGO、ビジネス・人権資料センター日本代表。2015年現在、アムネスティ日本で理事を務める。

キャンドル・ウォーク ガザの人々とともに

7月25日(土) 18:30~19:30

コース▶渋谷区宮下公園出発→表参道→渋谷駅前→神宮通公園解散(予定)

JR・私鉄・東京メトロ「渋谷駅」出口10または13aより徒歩3分

- 講演終了後、宮下公園に移動します。キャンドルやペンライト等、光るものをご持参ください。
- キャンドル・ウォークからの参加も大歓迎です。18:30までに宮下公園に集合してください。
- 飲料水を持参するなど、熱中症にならないよう各自で対策をお願いいたします。

〈主催〉ガザ攻撃から1年・7.25NGO共同イベント実行委員会

〈参加団体〉アークス仏教国際協カネットワーク / APLA / アムネスティ・インターナショナル日本 / サラーム・パレスチナ / 日本国際ボランティアセンター(JVC) / パレスチナ・オリーブ / パレスチナ子どものキャンペーン / パレスチナの子どもの里親運動 / ピースポート

〈賛同団体〉オルター・トレード・ジャパン(ATJ) / セーブ・ザ・オリーブ / 日本キリスト教婦人矯風会 / ヒューマンライツ・ナウ

